

野林千枝, 2013. シロテンハナムグリとリュウキュウオオハナムグリの交雑種の変異とその交尾器による分類. 鯉角通信, (26): 1-9.

佐渡山安常・佐々木健志, 2016. 宮古島から初めて確認されたフチトリゲンゴロウ *Cybister limbatus* (Fabricius) の記録. *Pulex*, (95): 693-694.

佐々木健志, 2016. 琉球大学博物館(風樹館)に収蔵されている沖縄県内で採集されたガムシ *Hydrophilus acuminatus* Motschulsky の標本記録. *Pulex*, (95): 695-696.

(2018年5月31日受領, 2018年6月15日受理)

【短報】西表島初記録となるゴミムシダマシ科甲虫3種

筆者は西表島において, 同島初記録と思われるゴミムシダマシ科の甲虫を3種採集しているため以下に報告する. また, いくつか採集データをいただいたため, 合わせて記録する. 採集地はすべて沖縄県八重山郡竹富町(西表島)であるため省略した.

ヒラヨツモンツヤゴミムシダマシ *Diaclina nakatai* Akita & Masumoto, 2003 (図1)

1♀, 8-9. VII. 2013, テドウ山北麓, 青木淳一採集; 2exs., テドウ山, 17. V. 2017, 緒方裕大採集; 1♂, 同所, 18. VII. 2017, 筆者採集; 1ex., 大富林道, 26. X. 2017, 緒方裕大採集; 1♀, 同所, 12. IV. 2018, 筆者採集; 2♂♂2♀♀, 上原, 14. IV. 2018, 筆者採集.

本種はタイ産地である石垣島のほかに, 与那国島からも記録されている(秋田・益本, 2016; 稲畑, 2017). 筆者は, 広葉樹立ち枯れのスプレーイングおよびライトトラップによって本種を採集しているが, いずれも林縁的な環境であった. 「日本産ゴミムシダマシ大図鑑」(秋田・益本, 2016)にも記述があるように, 自然林内に多い同属のヤエヤマヨツモンツヤゴミムシダマシ *D. yaeyamaensis* とうまく棲み分けているようである.

イシガキカタモンヒメクチキムシ *Mycetochara (Ernocharis) deguchii* Akita & Masumoto, 2016 (図2) 1♂, ウーシーク森, 13-17. IV. 2018, 筆者採集.

林道沿いにて, LEDライトに飛来した個体である. 本種は1978年に石垣島の於茂登岳で採集された1♂をもとに記載されており(秋田・益本, 2016), 本報告が本種の2例目の記録となる. 上翅肩部にある一対の斑紋には変異があると思われる. 今後調査が進み, ♀を含め追加個体が得られることに期待する.

コゲチャチビホソゴミムシダマシ *Corticeus (Tylophloeus) haddeni* (Pic, 1945) (図3)

6exs., 上原, 1. II. 2018, 筆者採集; 1ex., 同所, 14. IV. 2018, 筆者採集.

本種はタイ, マレー半島, ボルネオ, スマトラ, フィリピンに分布するほか, 国内においては石垣島のみから記録されている(秋田・益本, 2016). 林縁部においてトックリキワタ *Ceiba speciosa* の立ち枯れをスプレーイングしたところ, 多数のアメイロホソゴミムシダマシ *C. (T.) gentilis* およびアマミホソゴミムシダマシ *C. (Corticeus) maehleri amamiensis*, その他多くの雑甲虫に混じって少数得られた.

末筆ではあるが, 種同定をはじめ様々なご教示をくださった秋田勝己氏, ならびに貴重な採集データを提供してくださった青木淳一氏, 緒方裕大氏の各氏に心より御礼申し上げます.

引用文献

秋田勝己・益本仁雄, 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. 304 pp. むし社, 東京.
稲畑憲昭, 2017. 与那国島からのヒラヨツモンツヤゴミムシダマシの記録. さやばねニューシリーズ, (25): 47.

(中野文尊 464-8601
名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院
生命農学研究科)

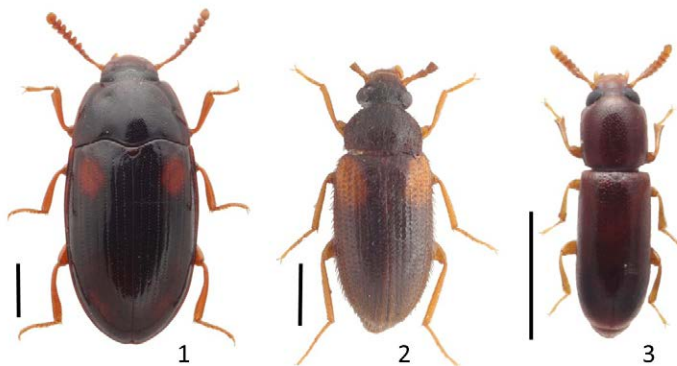


図1-3. 西表島初記録となるゴミムシダマシ3種. 1, ヒラヨツモンツヤゴミムシダマシ; 2, イシガキカタモンヒメクチキムシ; 3, コゲチャチビホソゴミムシダマシ. スケールバーは全て1.0 mm.